



平成29年12月21日 立川市広報課

送付文書 計3枚

報道機関 各位

市民企画講座「極域における最新の研究テーマとその成果！」を 開催します

たちかわ市民交流大学では、市民企画講座を開催しております。

今回は、国立極地研究所所属の研究者の先生から、最新の研究テーマについてのお話を聞く講座です。

取材ならびに記事掲載のほど、よろしくお願いたします。

記

1. 名 称 「極域における最新の研究テーマとその成果！」
2. 対 象 一般市民（市外在住の方の参加も可能です）
3. 日 時 平成30年1月17日、2月21日、3月14日、水曜日、
午後6時30分～8時30分
4. 場 所 女性総合センター・アイム
5. 講 師 外田智千さん（地圏研究グループ准教授）、後藤大輔さん（気水圏研究グループ助教）、石沢賢二さん（極地工学研究グループ技術専門員）
6. 定 員 40人（申込順）
7. 費 用 無料
8. 申し込み 立川市生涯学習推進センター（TEL 042-528-6872）
申し込み受付時間 8：30～17：15（月曜～金曜）

※別添チラシをご参照ください。

【問い合わせ】 立川市生涯学習推進センター 山口 智子

TEL 042-528-6872



たちかわ☆きらきらカード対象講座

国立極地研究所、立川市教育委員会、たちかわ市民交流大学市民推進委員

協働企画公開講座

極域科学シリーズ第13回 (H29年度)

極域における 最新の研究テーマとその成果！

国立極地研究所では、常に新しい研究テーマに取り組んでいます。
今回は、昨年に続いて、極域における「最新の研究テーマとその成果」について、
研究者からお話を聞き、楽しく学習します。

1回：平成30年1月17日（水）午後6時30分～8時30分
【南極大陸と地球の46億年の歴史】

講師 外田智千さん（極地研・地圏研究グループ・准教授）

2回：平成30年2月21日（水）午後6時30分～8時30分
【成層圏の温室効果気体の変動】

講師 後藤大輔さん（極地研・気水圏研究グループ・助教）

3回：平成30年3月14日（水）午後6時30分～8時30分
【探検・観測の成否を握る輸送

—砕氷船・飛行機・雪上車の昔と今—

講師 石沢賢二さん（極地研・極地工学研究グループ・技術専門員）

- ・定員：40名（申込順）
- ・受講料：無料
- ・会場：立川市女性総合センター・アイム（5階 第3学習室）
- ・申込：生涯学習推進センター(042-528-6872)まで [12月11日～]

【講師とテーマの紹介】

○^{ほかだ} ^{ともかず} 外田 智千さん：国立極地研究所・地圏研究グループ・准教授

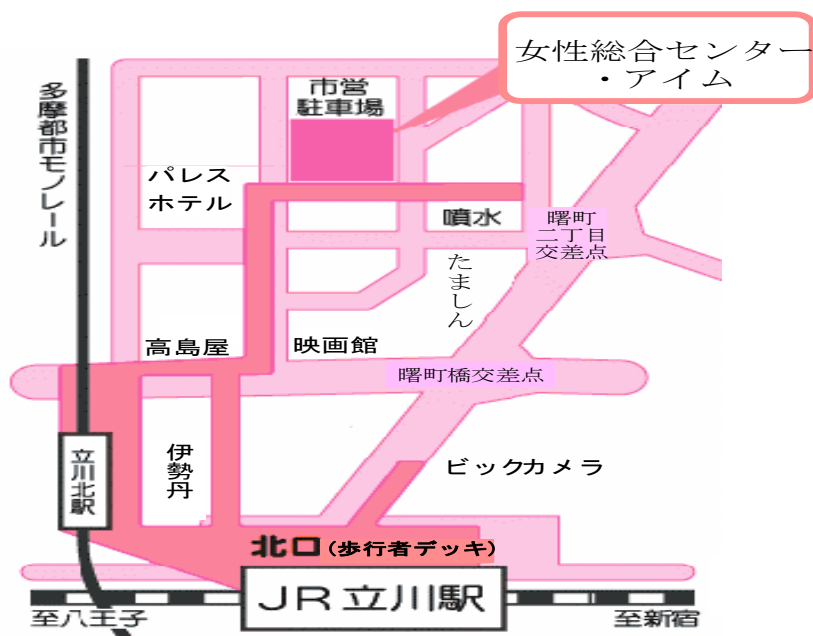
- ・南極大陸のイメージは、厚い氷に覆われた白い大陸でしょうか？ 氷の間に僅かに露出する岩盤の石を調べることで、地球の歴史や営みを探ります。南極でのフィールドワークや、最新の分析技術によって、地球内部での様々な現象や地球が誕生してから46億年の歴史を紐解く最新の研究を紹介します。

○後藤 大輔さん：国立極地研究所・気水圏研究グループ・助教

- ・高度10-15km前後までの対流圏と呼ばれる大気層で温室効果気体（GHG）の濃度が増加している様子が明らかになっています。対流圏のさらに上には、成層圏と呼ばれる高度とともに気温が低下する大気層がありますが、観測の困難さから、成層圏のGHG観測例は決して多くありません。GHGは成層圏でも対流圏と同じように変化しているのでしょうか。南極上空成層圏の希少な観測結果を基に、成層圏GHG濃度の変化について紹介します。

○石沢 賢二さん：国立極地研究所・極地工学研究グループ・技術専門員

- ・明治44~45年、人類初の南極点到達を成し遂げたのはノルウェーのアムンセンでした。そのときの輸送は犬たち、今は大型トラクターで60トンの荷物を牽引できます。白瀬隊の開南丸は204トン、18馬力の機帆船でした。今の「しらせ」は3万馬力です。南極での初飛行は昭和3年、現在は、南アフリカのケープタウンから南極大陸までジェット機で5時間です。南極・北極の探検時代から現代までの輸送について辿ってみたいと思います。



【会場へのご案内】

- (1) JR立川駅北口より徒歩7分
 - (2) 多摩都市モノレール立川北駅より徒歩6分
- *受講者専用の駐車場・駐輪場はありません。